

# 明和児童クラブだより

第4号  
2019年10月3日発行  
(文責) 鷲頭

## 各学校の運動会も終わり・・・

各学校の運動会も終わり、それぞれの子どもたちは、また新たな目標に向かっての学校生活を送れているようです。

しかしそんな中でも、運動会の疲れからか？ 今のところ体調を崩している児童もやや多いようです。市内でもインフルエンザの流行が始まっているようなので、明和児童クラブでも児童の体調管理に気をつけていきたいと思っています。



## 調査へのご協力ありがとうございました

「会員継続の確認等に関する調査」では、ご協力ありがとうございました。この調査に基づいて、今後は以下のように会員継続の手続きや、2020年度1年生になる弟さん・妹さんの入会手続きを進めていくこととなりますので、ご承知おきください。

### 【現会員の手続きについて】

- 10月中 ・継続希望者へ「会員継続願」提出の依頼（児童クラブ⇒各家庭）
- 11月中 ・「会員継続願」の提出（各家庭⇒児童クラブ）
- 12月中 ・必要書類（家庭状況調査票、就労証明書、写真等公開にともなう調査のお願いなど）の提出依頼（児童クラブ⇒各家庭）
- 1月中 ・上記必要書類の提出（各家庭⇒児童クラブ）
- 2月中 ・必要書類の確認・精査後に、「入会継続許可書」を送付  
(児童クラブ⇒各家庭)
- 3月中 ・退会希望者は「退会願」を提出

### 【新会員の手続きについて】 2020年度1年生になる弟さん・妹さんが、入会を希望する場合の手続きは、次のようになります。

\*ただし、明和幼稚園在園児については幼稚園をとおして依頼や提出等をお願いします。

- 10月中 ・入会希望者へ「入会申請書」提出の依頼（児童クラブ⇒各家庭）
- 11月中 ・「入会申請書」の提出（各家庭⇒児童クラブ）
- 12月中 ・必要書類（家庭状況調査票、就労証明書、学費口座振替依頼書、写真等公開にともなう調査のお願いなど）の提出依頼  
(児童クラブ⇒各家庭)
- 1月中 ・上記必要書類の提出（各家庭⇒児童クラブ）
- 2月中 ・必要書類の確認・精査後に、「入会許可書」を送付  
(児童クラブ⇒各家庭)

## 連絡

- ・10月28日（群馬県民の日）については、土曜日と同様に対応します。8時に開所しますが、朝から利用の場合には、土曜午前分の利用料（200円）が必要になります。
- ・「会員継続の確認等に関する調査」が未提出の方は、大至急提出をお願いします。
- ・10月22日（即位礼正殿の儀）には、児童クラブも閉所になります。

## 子育てのあれこれ No.6

今回は、子どもへの対応で特に、「ほめ方」について事例を通して考えてみたいと思います。

**事例** A子は、漢字テストで100点をとった。そのテストが返された日のA子の家庭での一場面。夕飯後、母親が食器を片付け始めると、いつもならテレビの前に座っているだけのA子が珍しく食器を運ぶのを手伝った。そんなA子に母親が声をかけた。

【母親】「いい子だね。えらいね。」(食器を洗いながら)

【A子】「だってきょうは、いいことあったから。」(食器を運びながら)

\*しばらくしてから、思い出したように

【母親】「そう言えば、いいことって何？」(食器を洗いながら)

【A子】「漢字テストが100点だったんだ。」(食器を運び終わり、テレビの前から)

【母親】「へえ、100なんてすごいね。100点とれてえらかったね。クラスにはほかに、100点の子はいたの？」(食器を洗いながら)

【A子】「Bちゃんと、Cちゃんも100点で、ほかに100点の人はいたみたい。」(テレビの前から)

【母親】「そう。次の漢字テストもがんばってね。それから、食器の片付け、これからもよろしくね。」(食器を洗いながら)

【A子】「はあい。」(テレビを見はじめながら。)

さて、上の事例の母親の対応で何かおかしいと感じることはあったでしょうか？

まず、親としては「悪いこと」の方に目がいきがちなのに(私もそうです)、**A子の「望ましい行動」を見逃さずに声をかけた母親の対応はとても素晴らしい**と思います。しかし、母親の言動としては、以下の点で、十分ではなかったと考えられます。

### 問題点①＝母親の言葉に「評価を意味する言葉」が多すぎる

「100点なんてすごい」「100点とれてえらかった」などの言葉は、「100点以外はすごくない」「100点とれなくてはえらくない」というメッセージを同時に送っていることになるので、これが続くと子どもはストレスをためることになります。まして100点も食器運びも次回も期待されたのではA子はたまったものではありません。

たとえば、食器運びを手伝ったことに対しては、「ありがとう。お母さん、とても助かるよ。」などど返していくべきだと言えます。このような「私は・・・」といった言葉かけは「Iメッセージ(YOUメッセージに対して)」と呼ばれ、子どもの話を聴くときに有効であると言われていています。

### 問題点②＝家事をしながら受け答えていること

教育心理学によると、親が子どもをほめたりしかったりする場合には、子どもには「**親の言葉の内容よりも、その語調や表情がより強く伝わる**」と言われていています(メラビアンの法則)。ですから、この場合でしたら、忙しい中ではあっても、母親は一度手を止めて、「え！すごいね。お母さんにも見せて！」とテストを持って来させ、A子といっしょに喜んであげればいわけで、多くの言葉はいりません。もし言葉をかけるとすれば、「いっぱい練習したんだね。」と「結果」ではなく「努力」を称えたり、「よかったね」と共感する言葉が適切と考えます。A子は、母親の喜ぶ顔を見たかったはずです。

### 問題点③＝友だちと比べていること

ほめる場合にも、しかる場合にも、兄弟や友だちなどと**比べる言葉は禁物**です。較されることが続くと人格がゆがむと言われていています。「ほかに100点の子はいたの？」と聞かれた瞬間に、A子の気持ちはいっぺんにしぼんでしまったに違いありません。

子どもに対する受け答えは、本当にむずかしいですね。私自身の経験でも、「ああ言えばよかった。」と後になってから思うことばかりです。少しでも参考にさせていただければ幸いです。

(参考文献)「子どもがのびのび育つ叱り方 ストレスになるほめ方」(加藤諦三)

「荒廃する親子関係」(黒川昭登)、「しかるが育てるもの」(高野清純)、「子どもの能力の見つけ方・伸ばし方」『心の基地』はおかあさん(平井信義)、「アドラー博士の子育てワークブック」『失敗に負けない子』に育てる本「子どもを勇気づける20の方法」(星一郎)、「ホネの教育論」(橋爪俊明)他